

審査の結果の要旨

氏名 Lam, Hilton Yu

本研究は、生命に関する個人の時間選好について、異なるサブグループ間で比較を行うとともに、個人の時間選好に影響する因子について調査分析を行ったものである。

本研究では、まずフィリピンと米国における 4 つのサブグループ、すなわち医学生、医師、看護学生、看護師間の時間選好に関わる割引率を比較した。分析対象は、米国人 345 人、フィリピン人 722 人、計 1,067 人である。分析の結果、いずれのサブグループにおいても、寿命の範囲内の割引率は、寿命より長期（80 年）の割引率よりも有意に高かった。また、いずれの割引率についても、いくつかのサブグループ間において有意な差が見られた。

比例オッズモデルによるロジスティック回帰分析の結果、ストレス、近親者の死、親友の死、悪化している平和や秩序、職業経験年数、年齢、収入、文化、国が、寿命の範囲内の割引率の関連因子であった。とりわけ割引率と年齢の関係について、寿命の範囲内の時間的視野と、寿命を超えた時間的視野の両方について検討したところ、いずれも年齢が増すと割引率は上昇するが、35～45 歳をピークにその後、減少した。

本研究の結果、寿命の範囲内の時間的視野の保健プロジェクトと、寿命を超えた時間的視野での保健プロジェクトにおいて、同じ割引率を用いている現状については再検討が必要であることが明らかになった。また、最適のタイミングで予防的あるいは治療的介入を行うために、個人の時間選好に影響を及ぼす要因を考慮する手がかりを得ることができた。

以上、本論文は生命に関する個人の時間選好が時間的視野で異なること、また個人の時間選好が年齢、職業経験年数、文化、ストレスなどの要因と関連することを明らかにした点で独創性が認められ、保健医療分野の予防的あるいは治療的介入において重要な貢献をなすものと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。